



看護部だより

ひまわり



2013年 1月
発行責任者：小牧加代子

VoL. 22



2013年 新年に夢を！！



看護部長 緒方くみ子

新年明けましておめでとうございます。

みんな揃ってこの新しい年を迎えられたこと、皆様のお陰で患者さんが年末年始を無事過ごせたことに心から感謝致します。

今年5月、スキーヤーの三浦雄一郎さんは80歳にしてエベレスト登頂に挑戦されるそうです。70歳で初登頂に成功、5年後心臓の手術を2回して再登頂、そして今年、人類の限界への挑戦です。その為に毎日両足に2kgの重垂と10kgのリュックを背負って散歩されるそうです。164cmの身長で筋肉量が58kg、この体力で是非夢を叶えていただきたいものですね。その三浦さんから若い人々へのメッセージは、

“夢を持って人生を楽しむ”

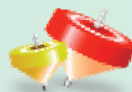
さて、皆さんの夢は何でしょう？人生楽しんでいますか？

もう一つ、ホスピスで出会った患者さんの言葉を紹介します。

“医療に携わる人は生きることについて語れる人であって欲しい”

この二つのメッセージは、一人一人生き方が問われているのだと思います。今を大切に一度きりの人生を精一杯生きること、いい人生になり、患者さんにより添い、語り、孤独にさせないケアにもつながって行くのだと思います。目標を持ち充実した一年にしましょう。

今年、病院は20周年を迎えます。開院の時から積み重ねられた歴史を大切に、新たな気持ちで取り組んで行きましょう。また、病院機能評価受審、WLBへの取り組みもありますが目的は医療の質の向上に尽きます。職員も患者さんもこの病院で良かったと思えるようロイヤリティを高めましょう。皆さんからいただいた貴重な意見を基に、休日の出勤をなくす・定時に帰れる日を作る・リフレッシュ休暇の推進など進めてきました。今後も更に新しい発想で進めたいと考えています。ご協力をお願いします。



再就業支援研修会報告

教育担当師長 小牧加代子

鹿児島県看護協会川薩地区では、看護職の職場定着と潜在化の予防、働き続けることのできる職場づくり支援を看護職確保対策の課題としています。川薩地区の事業計画として今年度も潜在看護職就業支援研修が企画されました。目的は「潜在看護師などが安心して再就業できるための最新情報や臨床を再体験する場を提供し、職場復帰が可能になるように支援する。」

H24年11月6日に3名の潜在看護師さんの募集があり、「最近の医療情勢、看護を取り巻く情勢について、医療安全、感染対策、救急時対応-BLS-」について座学と演習を実施しました。

結婚・出産・子育てなどで職場を離れて2～18年間とブランクも様々で、職場復帰に対して不安を抱かれていましたが、感染対策や急変時対応の演習では、真剣に取り組む姿や笑顔も見られました。今回は、当院での病棟体験はありませんでしたが、次回は是非たくさんの方が、臨床現場を体験して欲しいものです。

アンケート結果に、「いずれは働きたい」という感想が聞かれました。一人でも多くの潜在看護師さんが一日でも早い職場復帰ができるための支援研修を続けていく必要があると感じた研修会でした。

そうなんだあ…



スターティング

12/18 KYT研修
講師：城ノ下実千代師長

12月18日にKYTについて、城ノ下師長からパワーポイントを基に講義をして頂きました。事前に危険と思う場所について写真つきの事例を提出してもらっていたので、みんなで1つ1つ検討していきました。いろんな危険箇所気づいてくれていました。また事例をもとに検討してもらい、気をつけるところを発表したあと、みんなで指差し確認を行いました。今後も危険だと思えることはどんどん意見を出してもらい、病棟全体で検討していけたらよいと思います。危険だと思った時はすぐ立ち止まれるようにしたいです。(西川)



ウォーキング

12/6 メンバーシップ・プリセプター
講師：平木佐樹副主任

12月6日に行われたウォーキング研修では、3西平木副主任にメンバーシップ・プリセプターシップについて研修を行っていただきました。

内容は、プリセプターの定義からプリセプターになる条件・役割について講義が行われ、どういう指導者になりたいかというところまで話し合いができていました。

今回研修を受けたメンバーには、研修で学んだこととこれまでの自分の経験を生かして、新人と良い関係が持てるように、頑張っていってほしいです。(小浦)



ホップ

11/22 看護研究③
講師：村尾智子師長

看護研究3回目、「看護研究のための統計学」についてでした。統計学？難色を示す受講生。しかし講義が進むにつれ理解でき、質問にもドンドン回答が出て楽しい講義でした。

統計学はデータを分析する上で研究結果の信頼性を高め、質を向上すると考えられているため必要不可欠です。統計学を出すためには専用ソフトがあり、数字をいれて設定するだけですぐにでるという優れものでした。もちろんルールがあり、それを理解していなければいけません。

3回目の講義も終わり、少しは看護研究に対して苦手意識が薄くなったのではないのでしょうか。確かに難しく、理解に苦しむことも多いかと思いますが。その反面達成感も大きいとおもうので来年度の看護研究を前向きに取り組んでいってほしいと思います。(有馬)

教育研修レポート

ステップ

12/13 看護研究GW

ステップ研修では、看護研究を進める時間に割り当て5月、8月、10月と実施し、ついに最後の12月の研修を終えました。データ収集や文献検索の時間にあてたりと、それぞれが充実した時間を過ごせていると感じました。看護研究は1月末には最終提出となり、2月28日に発表の予定です。勤務などの都合でメンバー全員が集まることが少なかったり、集めたデータをどう使うのかなど、なかなか思うようにいかない事も多いと思いますが、今年度1年の頑張りをうまく文章にまとめることができたらしきと素晴らしい看護研究になると思います。発表を聞くのが今から楽しみです。(中森)

ジャンプ

11/29 サービス評価
講師：関口了子看護部顧問



11月29日に関口顧問から医療サービスの評価～日本医療機能評価を用いて～と言うテーマのもと講義を行って頂きました。2グループに分かれて正面玄関から受付、外来、病棟を患者目線歩き、良い面、悪い面をあげてもらいました。普段は気にしていませんが、実際患者目線になると見えてくるものがあるのだと感じました。良い気づきができていたと思います。

来年の機能評価に向けてすでに取り組んでいるため、自己の病棟ではどのように取り組んでいるのか興味をもってもらい、自分たちがどのように関わっていけたらよいのか、少しでも見いだせるといいと思います。課題も自分たちがどう関わっていったらよいのか考えさせられるものでありました。(西川)

アシスタントナース

10/25、11/1 看護技術
講師：松元美智子主任 福山亜須香主任



10/25、11/1に開催されたICTアシスタント研修では、DVDで基礎的な知識を学習したあと、実際に蛍光塗料を混ぜて作成した汚物を処理してもらい、どの程度残っているかをブラックライトで確認しました。また、手洗いの手技の再確認も行いました。

特に、手荒れした状況にあるとその荒れた部分に菌が付着しやすく、なかなか汚れが落ちない為、常に手荒れしないように自己管理しておくことも重要であると学びました。自分たちが思っている以上に、汚染範囲が広範囲であることや丁寧に処理したのにも関わらず、残っていることも体験でき、充実した研修内容でした。

今後時期的にもノロウイルスが発生してきます。参加スタッフ達が率先して、各病棟へ感染予防を呼びかけ、媒介を防ぐと共に、感染が出た際には迅速な対応ができるよう今回の学びを活かして欲しいと思います。(下斐)



院外研修・学会参加報告



「ファーストレベル研修」に参加して 4階東病棟 片平広美主任

この秋、私は認定管理者制度ファーストレベル研修を受講しました。中間管理者に必要な基本的な管理の知識・態度を学び組織の創造と変革に貢献できるように看護能力を育成することを目的としたものです。日々ただがむしやりに業務をこなしてきた私にとっては、自分自身の看護観を考え、組織とはどういうものか、その中の自分の役割について学び深く考える良い機会になりました。「部署を動かすのはスタッフ一人一人の力を積み上げることで、患者の満足をあげるには、まずスタッフの満足度をあげることが重要である」ということが一番印象に残っています。自分自身の考え方や姿勢がスタッフに大きく影響することを知り、私と出会えたスタッフに「この病棟で良かった、自分のやりたい看護ができています」と感じてもらえるように頑張ろうと思います。

最後になりましたが、忙しい業務の中で、総講義150時間という長期研修を受講するために病棟スタッフに協力していただいたことを感謝しています。ありがとうございました。

「セカンドレベル研修」に参加して 3階東病棟 久留須加寿美師長

平成24年9月5日から11月9日まで鹿児島県看護協会にて認定看護管理者セカンドレベル研修会に参加させて頂きました。

看護管理とは「人」「物」「金」「時間」「情報」をマネジメントし患者にとって望ましい看護を提供することだと言われています。すべてを意識的に行動することが今までの自分には出来ていなかった事を感じ、これからどうすればいいのか試行錯誤しながら実践課題を見つけ計画書を作成し研修を終えました。

実践課題は、委員会活動として行っている「褥瘡予防」の視点から計画を立案しました。褥瘡予防を効果的に行うためにリンクナースの育成を行い、リンクナースが各部署で予防対策を浸透させられるような支援を行い、褥瘡発生率の減少が成果として出せればと考えています。

「人」「物」「金」「時間」「情報」をマネジメントし成果が得られるよう努力したいと思っています。ご協力をお願いします。

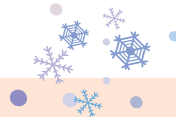
「管理者研修倫理的な職場風土の醸成に向けて」 (11/9)

4階西病棟 田口弥生主任

平成24年11月9日看護管理者倫理研修へ参加してきました。

1事例の経過を用い、分析シートにそってグループワーク、意見交換を行いました。普段の看護ケアの中や、家族との関わり、反応に関してふと立ち止まって考えてみることで、その行動や言動の中に含まれている思いを感じとれるように日々の振り返りが非常に大切であることを再実感した研修でありました。

また、患者・家族との関わりだけでなく、スタッフとの関わりも教育や業務を通して、一人一人を大事に思い、お互いが一人の人間として看護師として日々成長していけるよう取り組んでいきたいと思っています。



「日本赤十字社鹿児島県支部救護員基礎研修（災害看護）」に参加して

3階西病棟 高橋麻美

日本赤十字社鹿児島県支部にて救護員基礎研修に3日間参加しました。救護資機材の取り扱いやトリアージ、災害救護活動、救護班要員の役割について学習しました。災害時の行動計画の要点はCSCATTTであり、それを踏まえ震度5度という想定で実動訓練を実施しました。救護所や資機材を設置し、看護学生が患者役となり、1次トリアージ・2次トリアージを行い、処置や看護、救急搬送の要請などを行いました。

訓練を通して、災害発生時は混乱を招くので伝達や報告がいかに大切であることを学びました。災害初期では、病院機能維持のためのマンパワーとチームワークが必要です。当院でも災害マニュアルや対策は備えてありますが、日頃からの訓練実践は不足していると思います。今回の研修で平時からの訓練が重要であることを強く感じさせられました。



「固定チームナーシング研究会 第7回鹿児島地方大会」に参加して (12/2)

外来 富田あかね

今まで（もちろん以前働いていた職場でも）小集団活動は行ってきました。しかし、今回この研修に参加して私は小集団活動をあまり意識していなかったという事を実感しました。小集団活動に求められるのは、それぞれが活動する分野において病棟全体に対し問題提起する姿勢。今のままで満足しているのか、もっと患者の立場に立ってみてはどうか。なんとなく目を瞑ってしまっていることはないか。他の部署や他の病院での取り組みはどうか。情報の発信源となることも必要であると学びました。また、看護師だけの取り組みには限界がある事は他の部門にも協力を要請する窓口となる役割もある事を学びました。自分達だけの活動では無く他部門の専門的な知識・技術を大いに活用してより充実した看護を提供できるよう取り組んでいきたいと考えます。

「北薩リハフォーラム2012」 ～チームで支えるリハビリテーション～に参加して（11/17）

回復リハビリ病棟 小嶋和子主任

H24年11月17日に薩摩川内市国際交流センターで開催された「北薩リハフォーラム」に参加しました。

薩摩川内市出身の高島英明先生（長崎医療センター脳神経外科医長）から「脳卒中後の嚥下障害と誤嚥性肺炎」をテーマに口腔ケアの実際と脳卒中の発症早期からの評価・訓練で、意識レベル・ADLの回復効果がアップするという“目からウロコ”の講演でした。

私は、以前回復リハビリ病棟に入院されていた患者・家族の不安・不満を感じ取ってあげられないまま退院を希望された事例を思い出し、このフォーラムで、回復リハビリ病棟に求められる看護について改めて考える機会を得ました。私自身ただ日常の援助を行い、看護の提供をしていただければ満足していただけだと思込んでいたのかもしれませんが。事例を振り返ることで、もっと患者・家族の思いを確認し、患者・家族が自律した生活を送るためのサポートが出来るように介入することが必要であると再認識しました。

他職種と連携し、回復リハビリ病棟看護師として何をやるべきかを考え、患者・家族が満足できる看護はどうすればいいのか、その為には患者・家族の思いを知ることが大切です。

ここの病棟のスタッフに出会えて良かった、この病院に入院して良かったと思って頂けるようにより良い看護を追求し、少しでも満足して頂けるようなリハビリ病棟看護ができるように挑戦していきたいと思います。

ミニナラティブ

回復リハビリ病棟 大重かおり

当院回復期リハビリ病棟に異動になったすぐのころ、急性期でみていた患者さんが1本杖で歩行されていたのをみて感動しました。その患者さんは、重度の右麻痺があり、注入食、意志疎通も図れないほどの状態でした。それが3食経口になり単語でのコミュニケーションも図れるようになり装具をつけての歩行獲得もできていました。私は急性期しか働いた事がないため、急性期を脱してからの患者さんの状況など知ることなかったので、患者さんの回復状況をみての感動はとても新鮮に感じました。回復期で働くようになり、口から食事をさせてあげたい、障害受容ができ次のステップにすすんでもらいたい、自宅退院してもらいたいなど患者さんや家族の抱えている問題に少しでも役立て看護できたらと日々思いながら接しています。そして今、回復期リハビリ看護認定看護師として、スタッフとともに患者さん・家族に寄り添い思いを聞きながら、その人らしい生き方ができるように看護していこうと思います。

マイブーム

手術室 小牧 愛

「グレイズ・アナトミー」というアメリカの連続ドラマをご存じでしょうか？私は数年前からハマりにハマり、新シーズンが出る度にレンタルに走ります。外科医のインターンの仕事や恋愛模様がとても面白いドラマで、日本のドラマと違い予算が潤沢な分、迫力あるシーンや高価な医療機器などがありいつもハラハラ★ドキドキして見えています。

役者は皆イケメン揃いで魅力的な医師が多く、特に脳外科医のシェパード先生が大・大・大好き！！先生の魅力を語りだすと字数が足りないので割愛しますが、手術開始前に「命を救う素敵な夜だ。さあ皆楽しもう！」と言って執刀するのです。（かつこよすぎる！）川野先生にその話をしたところ、「今度執刀前に言ってあげよう！」と快くおっしゃって下さいました（笑）ありがたいことです。脳外科の器械出しが楽しみになりました。

実際に見ることの少ない珍しい症例などもあるので興味深いですよ！皆さんも是非、鑑賞してみてください！



★講演会のお知らせ★

テーマ：「家族看護～家族力を高める看護～」

講師：九州大学病院 急性・重症患者看護専門看護師 久間朝子先生

対象：看護部職員

日時：2月1日（金） 17：30～19：00

*17：15～受付開始 時間厳守でお集まりください

場所：2階会議室

編集後記

『小さな目標！大きな夢！』

皆様、新年明けましておめでとうございます。年末年始、勤務された方々本当にご苦労様でした。

みなさんは、何か今年の目標を決めましたか？すでに、1月も半分 が過ぎすっかりお正月気分も抜けていると思いますが、お正月のお餅が蓄積した体重はそのまま困っている人もいるのではないのでしょうか？私も今年こそは体力づくりとウェイトコントロールに取り組みたいと考えています。また、今年は“巳年”です。脂肪を蓄積するのではなく、財蓄をするには縁起の良い年です。頑張ってみてはいかがでしょうか。私はさっそく500円玉専用の書籍本型の世界旅行をテーマにした貯金箱を購入しました。（1冊10万円分）1枚1枚はめ込み式になっていて、世界各地の観光名所が書かれており旅行の夢は膨らむばかりです。楽しみながら貯めて、リフレッシュ休暇のお小遣い用に頑張りたいと思います。

（小牧）